

中学校競技の部

3年間の部活動を終えて 各チームの主将より

【日枝中学校男子】野々尻 知弥



三年間でバスケットを通して学んだことは二つあります。一つは「我慢する」ということ。バスケットは少し練習したからといってすぐに結果の出るものではありません。毎日の辛く厳しい練習にくじけそうになることもたくさんありました。それでも仲間と励まし合いながら、地道な努力を積み重ねていくことで、大きく成長することができました。もう一つは「諦めない」ということ。中学校最後の試合となった中体連県大会2回戦。相手は春の覇者・大垣東中でした。実力でいえば向こうが遙かに上でしたが、最後まで決して諦めることなく戦いました。勝つことはできず、試合後はチームのみんなが悔し涙を流していました。それでも、最後までこの仲間と戦い抜くことができたとこの充実感を得ることができました。バスケットを通して学んだことは一生の宝物です。三年間やり抜いたことを誇りとして、ずっと心に置いておきます。

【日枝中学校女子】松巾愛実



私は、部長になってからも試合に出る機会はありませんでした。部員ともうまくいかず喧嘩したり途中で帰ったりしたこともあります。親や先生、部員のみんなに迷惑ばかりかけていました。部活へ行ってもつまらなくて、途中でやめようと思ったこともありました。でも、いろいろな人が支えてくださったおかげで、途中でやめることなく最後までやり切ることができました。こんな頼りない私についてきてくれた仲間や後輩に感謝しています。いろいろと迷惑をかけてしまった親や先生方にも感謝したいです。最後まで続けることができて良かったです。本当にありがとうございました。

【松倉中学校男子】仲真 良



僕がバスケットで学んだのは、仲間の大切さです。練習などで辛いときに、仲間が声をかけてくれる。それだけで、「あともう少し」と思い頑張れることがたくさんありました。試合で負けているとき、ベンチから一生懸命応援してくれる声を聞き、その仲間の分まで頑張ろうと思い、頑張れる。僕が今までバスケットを続けられたのは、仲間のおかげです。三年生は4人で、試合ができない。でも、2年生の力を借り勝つこともできました。仲間には学年など関係ないと思います。三年生の練習に向かう姿勢が間違っていれば二年生が注意する、それが仲間です。松倉でそういう姿を見たときに、僕は仲間って良いなと思いました。仲間同士で注意し合い、お互いに信頼しあって強くなれるのだと思います。そして、そんな仲間に出会えたことを感謝したいです。

【松倉中学校女子】岩垣津 花穂



先輩に憧れて入部したバスケット部。入部直後からの走り込みはとても辛かったけれど、走る・パスをする・ドリブル・シュート等毎日すべてが楽しく、そして充実していました。そんな私たちに顧問の先生が繰り返しおっしゃったことは「感謝する」ということです。バスケットができる環境を作ってくれる両親へ、忙しい中指導して下さるコーチや顧問の先生へ、そして何より声をかけて励ましてくれたり力を貸してくれる仲間への感謝の気持ちを、決して忘れません。自分ひとりが頑張っているのではなく、周りの人たちの協力でプレーできている事をつい忘れて、強い言葉でチームのムードを暗くしてしまったこと、今思うととても残念で反省すべき点です。常に「感謝する」気持ちを忘れないように、そして自分自身も感謝されるような協力ができるように、心がけていこうと思います。

【中山中学校男子】石松孝則



バスケットボールを通して学んだことは、「仲間との信頼を築くこと」です。僕は、仲間との信頼を築くことができたからこそ、どんな練習も乗り越えることができたと思います。先輩方が引退され、いよいよ自分たちの代が新チームとなったとき、すごく心配でした。「先輩方のように、試合で勝っていくことができるのか、僕はキャプテンとしてやっていくことができるのか」と不安を感じながらのスタートでした。しかし、考える暇などないくらい辛い練習の日々が続いていき、キャプテンとして何をすればよいのか、勝つためにはどうすればよいのか、悩む日々が続きました。そんな中、僕を支えてくれたのは「がんばろ」「あと少しやで、みんなで乗り越えよう。」という仲間たちの声でした。支えてくれる仲間に対し、僕も、仲間の直したほうがよいプレーや、自分たちはこういうプレーをしたいという想いを伝えました。そういった、仲間とのやりとりを通して、次第に、僕たちの中で絆が芽生え始めてきました。最初に感じた不安だったことは、確かに達成できたとはいききれないかもしれませんが、しかし、いろんなチームと戦う中で、僕たちは一つの目標に向かって戦うことができるチームなり、苦しい試合にも勝ちきることができるようになりました。僕は、キャプテンとしてできたことは、少なかったです。しかし、仲間を助けられてここまで頑張ることができました。すごく辛かった日々もあったけれど、仲間がいくれたからこそ、やってこれました。

【中山中学校女子】梅地 真実愛



私たちは「チームワーク」を学ぶことができました。初めはなかなかうまくまとまることができなくて、何回もぶつかり合ったり、話し合ったりしました。お互いにわかり合えず先生に助けってもらうこともありました。でも、そのおかげでお互いが本音をぶつけ合い話し合うことができました。今では、このチームワークというのは、私たちにあって財産になりました。私自身もみんなをまとめる力や責任感、仲間を想い気遣い、信頼する心の持ち方など部活動を通して学ぶことができました。

高校へ行ってもみんなバスケットをすると思うので、今までに付けた力をそれぞれが活かして、また活躍していきたいです。

【東山中学校男子】 嶋田 颯



僕は東山中でキャプテンをやらせていただきました。キャプテンは責任をもち、コートの中では誰よりも声を出し、コートの外では常にチームとチームメイトのことを考えなければなりません。本当に自分がキャプテンで良いのかと思うことが何度もありましたが、仲間やコーチ、先生に支えられたおかげで今までやってこれたと思います。バスケットを通して、自分は精神的に強くなれたと思います。バスケットはチームです。自分のミスはみんなのミスになってしまいます。自分も仲間も技術、精神ともに成長したと思います。バスケットはあきらめると終わりのスポーツです。これからの人生も決してあきらめることのないようにしていきます。

【東山中学校女子】 川上苑華



私は3年間バスケットをやってたくさんのことを学びました。1年生の頃はただ楽しそうに入った部活でした。実際にやってみるとすごくえらくて、それに自分の学年は2人しかいなかったで、正直やめたいと思ったこともありましたが。だけど毎日練習をするとだんだん上達して行って、つらいメニューでもやりきれたときはすごく充実感があつたし、今ではやって良かったと思います。精神面でもすごく成長できたと思います。私はバスケットを通して「あきらめないこと」として「何事も最後までやり抜くこと」の大切さを特に学びました。私が3年間バスケットができたのも、先輩や後輩、保護者の方々、そして先生方のおかげだと思います。支えて下さったたくさんの方に感謝の気持ちを忘れず、バスケットを通して自分が得たものを、これからの生活に活かしていけるようにします。3年間バスケットができて本当に良かったです。

【国府中学校男子】 岩佐達也



僕が3年間中学校でバスケットボールをやってきた、1番の思い出は中体連、最後の試合です。最後の松倉中学校との試合では、今までで一番緊張していても心配でした。でも、先輩が大きい声を出して支えてくれたので。試合に集中することができました。試合中に足を痛めて苦しい試合でしたが、今まで一番積極的に攻め、得点することができ、点差が開いても最後まで諦めないで守ることができました。勝つことはできなかったけれど、今まで一番の試合ができました。バスケットのおかげで、強い自分になることができました。たくさんの人に支えられて、これまでやってこれました。支えてくださった全ての方に「感謝」したいです。

【国府中学校女子】 谷口夏海



私がバスケットを通して学んだことは、国府中女子バスケット部の心得である「思いやりの心」「気配りの心」「感謝の心」の3つの心です。チームプレーでは、仲間が大切です。「ドンマイ」「ナイス」などの声をかけ合って練習に励みました。仲間を思いやってプレイすることの大切さを学びました。また、自分の事だけを考えては強くなれません。周りに気を配ることの大切さも学ぶことができました。私がコートの上で精一杯プレーすることができたのは、教えてくださるコーチ、先生方、道具を揃えてくれたり送り迎えなどで協力してくれる親さんたちのおかげだと実感し、感謝の心の大切さも学ぶことができました。練習する中で、仲間とぶつかることもたくさんありました。そのたびに、何度も話し合ってお互いを理解し合い、中体連で勝ち上がる事を目指してきました。最終的な結果では地区大会に進むことはできませんでしたが、国府中学校の女子バスケット部のみんなとバスケットができて、本当によかったです。

【清見中学校女子】 東 真依子



私がバスケットで学んだことは、最後まであきらめないということです。試合中にあきらめて弱い気持ちになると、その思いでミスが増えます。ルールボールをあきらめずに取ることで、得点に繋がります。一瞬「ダメかな」と思ってもそれを振り切って、相手やボールにくらいついていくかどうか勝敗の分かれ目です。あきらめないということは、どんな場面でも大切になると思うので、これから生活していく中でも取り入れ、最後まであきらめずに頑張りたいです。

【稜中学校女子】 沖本 絵里香



私が北稜中バスケット部のキャプテンとして学んだことは、「声を出すこと」の大切さです。試合中、声を出していないということは、がんばっている仲間に任せきってしまっていることに気がきました。苦しい試合ほど、声は出なくなります。しかし、そんな時ほど声を出してパスをつなぎ、みんなを攻めて守らなければいけないと思います。そのためには日頃の練習から声を出すことこそが大事だと考えています。どんな時でもみんなで声を出すことだけは絶対に守っていきたいです。

中体連を終えて

中山中学校女子 2年連続東海大会出場

中山中学校が2年連続（6回連続）となる県大会優勝を果たし、東海大会に出場しました。結果は右のように惜敗しましたが、最後まで粘り強くプレーしました。

中山（岐阜1位）	8-12	桜（三重2位）
	14-15	
56	14-18	69
	20-24	



私たちは、2年連続で岐阜県大会を優勝することができました。去年は、東海大会の1回戦で愛知県の2位の藤浪中学校に、100点ゲームで負けてしまったので、今年はぜひとも勝ちたいと思っていました。しかも、今年の1回戦は三重県の2位でチャンスがありました。私たちも勝ちたいと思っていました、岐阜県の多くの人が私たちに期待をしているのがわかりました。

東海大会の1回戦、緊張からか思うような立ち上がりにはなりません。しかし、最初のシュートが決まったのをきっかけに、数点差を追いかける展開となりました。しかし、追いつきそうでも、あと少しのところ、なかなか追いつくことができません。そして、時間が過ぎていきます。ついに、逆転することなく、負けてしまいました。悔しかったし、応援してくれた人たちに申し訳ない気持ちでもありました。でも、私たちの中では、最後に一番いい試合をすることができたと思います。この仲間と最後にいいゲームができたことが幸せでした。これまで一緒にやってきた仲間や、支えてくれた親、指導して下さったコーチや先生に感謝の気持ちでいっぱいでした。

3年間の部活を通して、たくさんのすばらしい経験をする事ができました。これまで応援して下さったみなさん、ありがとうございました。（中山中学校 女子バスケットボール部主将 梅地 真実愛）

※平成22年度中体連総合大会の結果一覧は最終ページに掲載しています。

ミニ競技の部

熱戦を繰り広げています!

協賛の御支援のもと、7月24日、25日に高山カップが行われました。高山ミニ・高山ドルフィンズを含めた男女それぞれ12チームが参加し、夏の暑さに負けにくいぐらいの熱戦を繰り広げました。結果は以下の通りになっています。

2日間の大会を通して、県内外のチームとゲームを行うことができ、とてもよい経験となりました。



男子の部

予選リーグ	高山 51-23 フジ 高山 60-16 ダンク
決勝トーナメント2回戦	高山 73-36 奥田
準決勝	高山 49-59 定塚
3位決定戦	高山 48-43 敦賀

女子の部

予選リーグ	高山 25-47 陶原 高山 71-30 犬山 ドルフィンズ 11-83 北陽 ドルフィンズ 30-58 ダンク
決勝トーナメント1回戦	高山 41-35 関 ドルフィンズ 46-62 滑川

決勝トーナメント2回戦	高山 13-53 北陽
敗者戦	高山 48-43 敦賀
敗者戦2回戦	高山 27-62 フジ
交流戦	ドルフィンズ 28-57 関 ドルフィンズ 31-35 犬山

11月3日から第33回岐阜県ミニバスケットボール大会が行われました。高山勢の結果は以下の通りです。高山ミニ（女子）は、みごと県大会優勝を果たしました。



男子の部

予選リーグ	高山 95-25 揖斐 高山 38-36 ダンク 高山 57-30 関
1位トーナメント1回戦	高山 40-41 鷺山
3位決定戦	高山 41-46 神戸

女子の部

予選リーグ	高山 66-26 瑞穂 高山 64-21 山手 高山 73-30 揖斐 ドルフィンズ 36-65 関 ドルフィンズ 20-59 大垣 ドルフィンズ 41-43 Kミニ
-------	--

1位トーナメント1回戦	高山 48-33 大垣
決勝	高山 49-45 ダンク



競技力向上に向けて!



飛騨地区の高等学校のチーム力強化に主眼を置き、男子は斐太高校、女子は高山西高校が中心となって8月中旬にサマーキャンプ・イン・高山を実施しています。今年度は、男子が8月11日～13日の3日間(会場:ビッグアリーナ)、富山県の泊高校など計8チームで、女子は8月11日～13日の3日間(会場:高山西高校)、中部学院大学や清林館高校など計8チームを招いて、練習会を開きました。新チームの強化またはウィンターカップへ向けて、チーム力増強に大きく貢献したと考えています。

岡本君・打江君、千葉国体に出場!



岡本将大君



打江謙吾君

今年度は9月に開かれた千葉国体に岐阜県少年男子代表として、岡本将大君(美濃加茂高校3年)・打江謙吾君(美濃加茂高校2年)の2名が参加しました。2人はともに松倉中学校出身で、県を代表するプレイヤーに成長しています。

また、平成24年度に開催される岐阜清流国体では、一人でも多くの地元出身の選手が国体選手として活躍してくれることを期待しています。

平成22年度中体連総合大会の結果一覧

【日枝中男子】地区大会2位 県大会ベスト8
 【松倉中男子】市大会4位
 【中山中男子】地区大会4位
 【東山中男子】地区大会1回戦敗退
 【国府中男子】市大会5位

【日枝中女子】地区大会準優勝、県大会3位
 【松倉中女子】地区大会1回戦敗退
 【中山中女子】県大会優勝 東海大会1回戦敗退
 【東山中女子】地区大会1回戦敗退
 【国府中女子】市大会6位

【北稜中女子】市大会7位
 【清見中女子】地区大会4位

平成22年度 第58回岐阜県高等学校総合体育大会バスケットボール競技大会結果

男子

1回戦 斐太 82-63 中津
 高山西 80-65 長良
 高山工 64-74 岐阜

2回戦 斐太 71-62 土岐商
 高山西 68-87 中津川工業

ブロック決勝 斐太 45-77 岐阜総合

女子

1回戦 高山西 108-52 岐阜北
 斐太 42-110 長良

ブロック決勝 高山西 53-45 土岐商

決勝リーグ 高山西 40-95 岐阜女子
 高山西 46-67 県岐商
 高山西 42-78 長良

編集後記

中学生の各主将の言葉を読むと、仲間を得た者、自信を得た者、価値ある生き方を学びとった者と、得たものは様々ですが、どの選手もやりきり、何かを得たように感じます。さて、話は変わりますが、「明日もまた生きていこう」という本を知っていますか。バレーボールの世界ですが、若干高校生にして、日本代表入りし、オリンピック選手として期待された横山由美佳さん。しかし、待っていたのは、突然の癌宣告でした。ドラマでも放送されていたので、知ってみる方もいらっしゃるかもしれません。そんな彼女の自伝からは、彼女の強さを感じます。何が強いのかと言えば、彼女の瞬間一瞬を懸命に生きる強さです。それは、病魔に侵されたから強くなったのではありません。バレー選手時代でも、彼女の強さを感じさせます。だからこそ、癌に冒されても、

夢を叶えようとあれだけ強く生きられたのかもしれませんが。そんな彼女の言葉は、「心変われば、物事は変わる」でした。彼女のこの言葉を読んだ時、私にも「何かのせいにして、逃げていないか」と、問われているような気がしました。

上半期では、多くの選手が引退を経験しました。そんな引退した選手にも、壁にぶつかった時やつらい時期もあったと思います。しかし、そんな壁もつらさも前向きにとらえ、乗り越えてきたのでしょうか。今バスケットボールに励んでいる選手たちにも、壁やつらい時期はあることと思います。しかし、それを乗り越え、何かを得ていくことを願っています。(J.N)